

平成 24 年度 放課後子どもプラン合同研修会 アンケート集計結果

2012/10/10

長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課



講義 ①



講義 ②



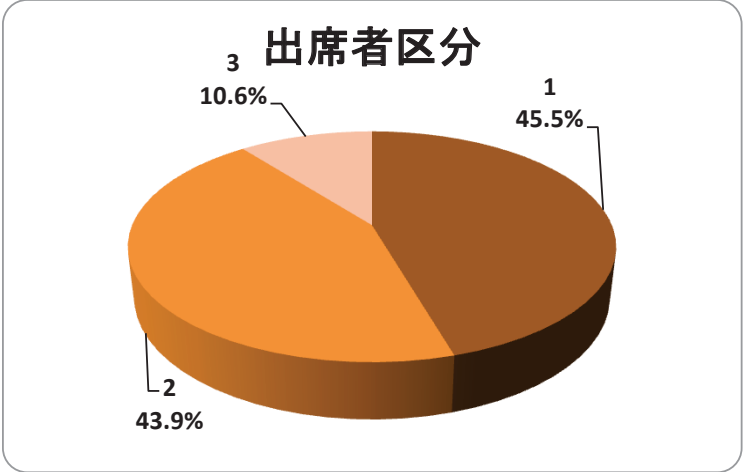
情報交換



情報交換まとめ

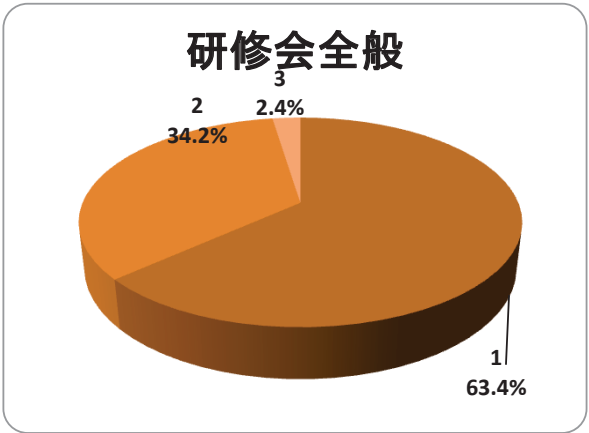
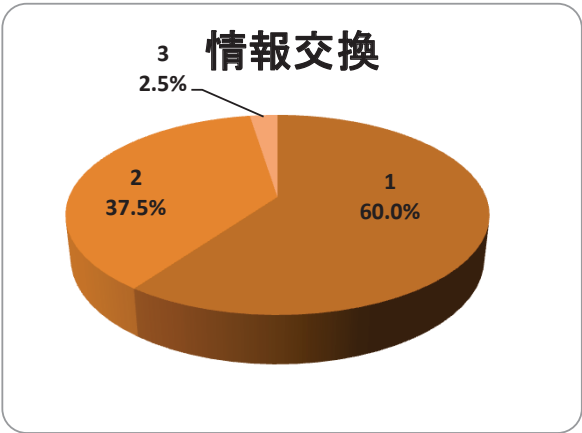
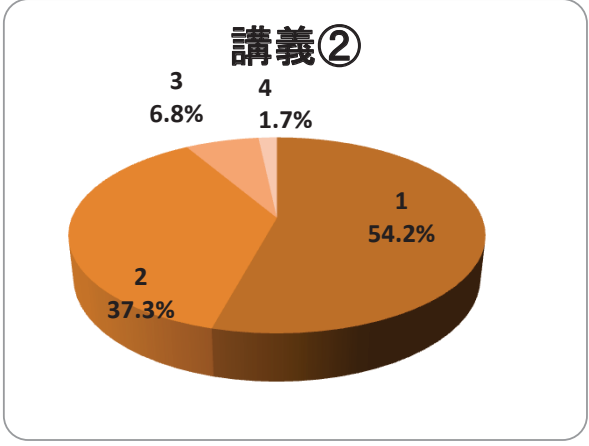
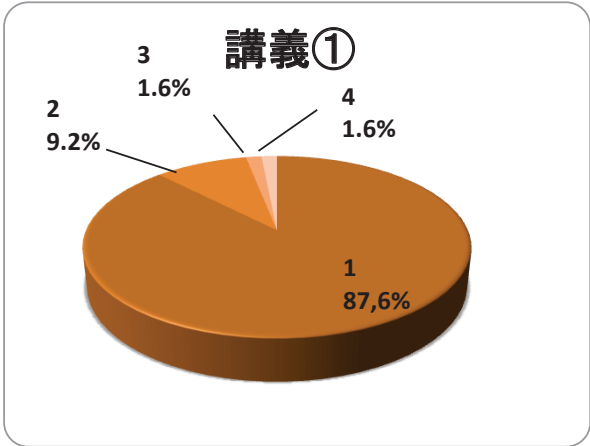
出席者区分について

- 1 放課後子ども教室関係者
- 2 放課後児童クラブ関係者
- 3 その他



1 内容について

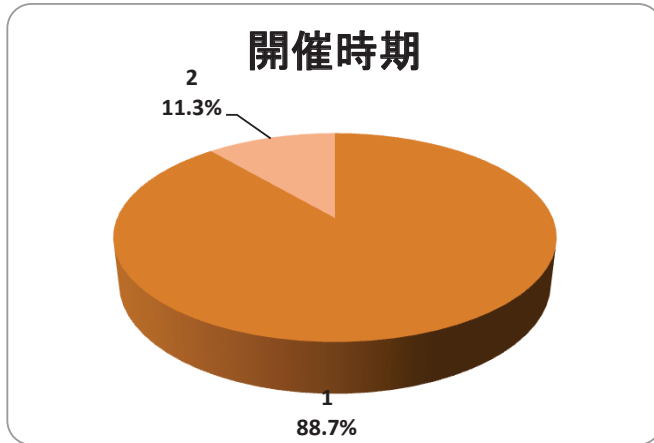
- 1 満足
- 2 やや満足
- 3 やや不満足
- 4 不満足



2 開催時期・会場について

1 よい

2 他の時期

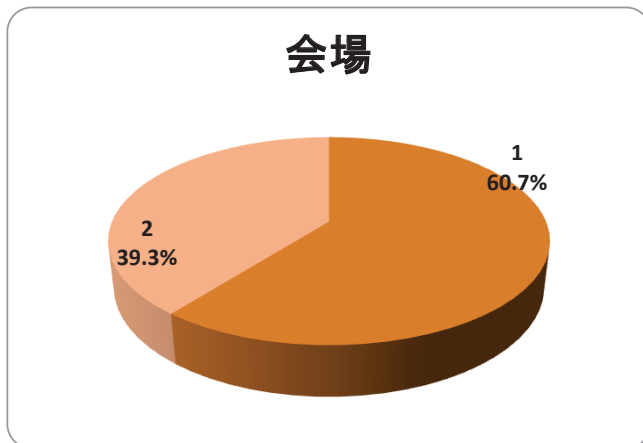


具体的な時期(人数)

- (1) 5・6月 1(人)
- (2) 6・7月 1
- (3) 7月 1
- (4) 11・12月 1
- (5) 11月 1

1 よい

2 他の会場



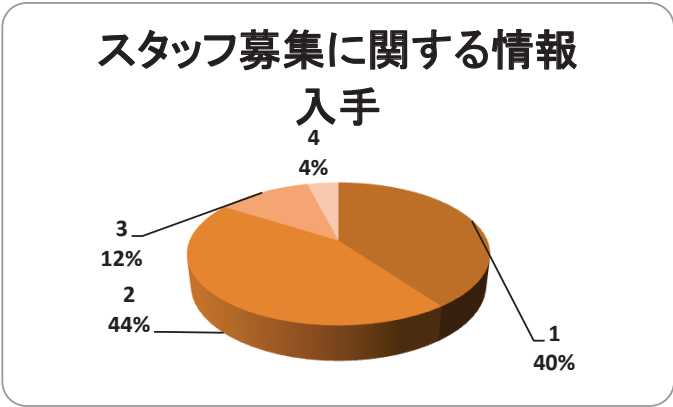
具体的な会場(人数)

- (1) 駐車場の確保できる所 15(人)
- (2) 総合教育センター 5
- (3) 松本合庁 3
- (4) 松本市総合社会福祉センター 1
- (5) 長野市内 1
- (6) 地元 1

<現場スタッフ回答>

5 スタッフ募集に関する情報をどこから入手しましたか。

- ① 市町村の広報 ② 友人・知人 ③ 前事業からの継続 ④ その他

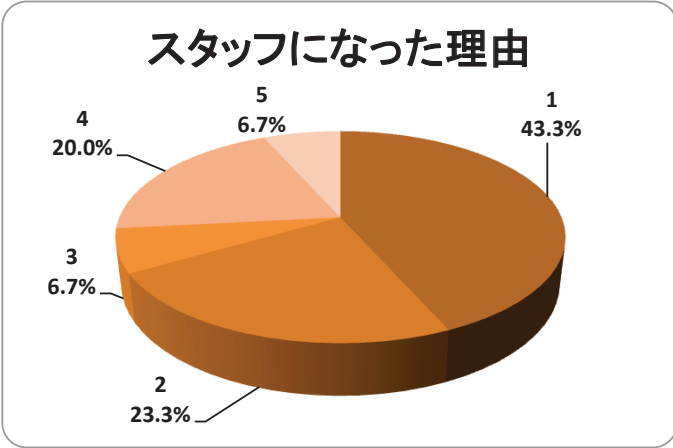


「④ その他」の内容

※具体的な回答なし

6 どうしてスタッフになろうと思いましたか。

- ① 子どもが好きだから ② 社会の役に立ちたかったから ③ 友人に誘われたから ④ 市町村の職員に頼まれて ⑤ その他

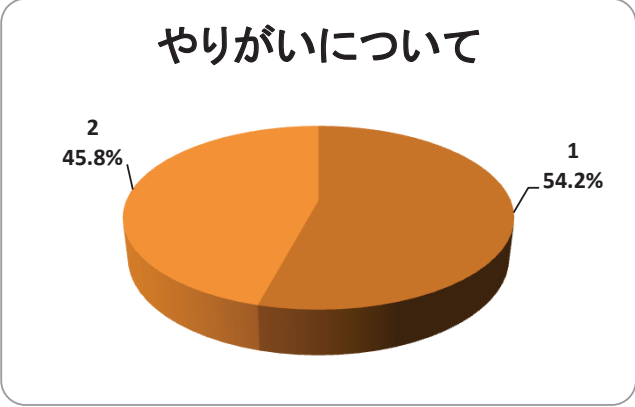


「⑤ その他」の内容

※具体的な回答なし

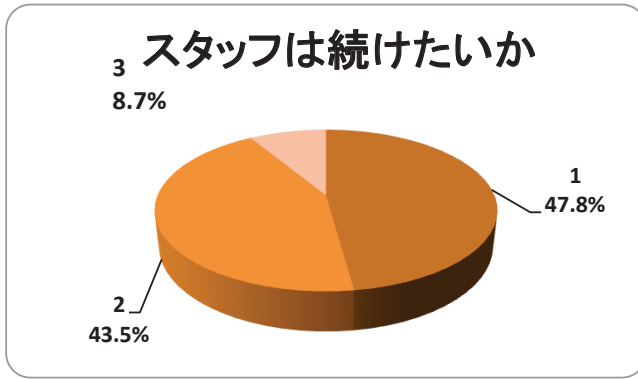
7 現在スタッフとしてのやりがいはどうですか。

- ① 大変やりがいがある ② まあ、やりがいがある ③ あまりやりがいがない



8 これからもスタッフを続けていきたいと考えていますか。

- ① ずっと続けたい ② 数年は続けたい ③ できれば辞めたい



9 事業に参加(従事)している中での課題や感想をお書きください。

放課後子ども教室関係者

- ・30人のスタッフの心を一つにすることが難しい。
- ・活動時間が短い。
- ・いろいろの子どもがおり、指導(強い指導はしないが)が難しい。
- ・保護者が全員というほどエールを送ってくださるので、やる気が出る。また、子どもたちのためになっているんだということを感じている。
- ・スタッフに対しての言葉遣いが気になる(尊敬、感謝がない)。迎えに来る母親もしかり(会話が荒い)。
- ・例えば校庭でペタンクを行うには、鉄球の扱いに充分注意を払うようきつく言う。ケガ防止は大切。会の始まりと終わりの整列をキチンとさせること。殆ど欠席のスタッフの扱い方をどうすればよいか。
- ・地域と学校がより連携していけばいいのか? むずかしい問題だと感じる。
- ・当初から比べると、ルールが出来てきて、全体におちついてきた。当初1年生だった子ども達が6年生になり、教室をひっぱっていつてくれている。先生方、親(家の方)との交流・関わりを大切にしていきたい。
- ・この事業に子供もそうですが、私(スタッフ)がすくわれていると実感しています。ありがとうございます。

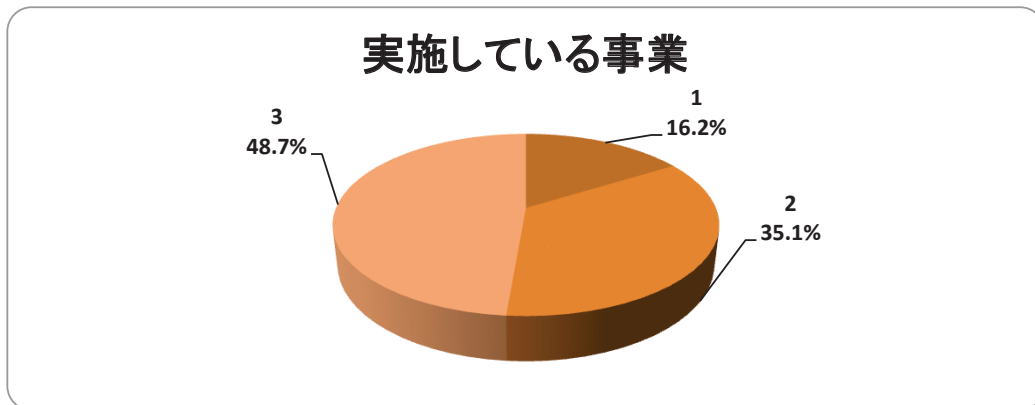
放課後児童クラブ関係者

- ・子供が増え、目の届かない事がある。
- ・自分になついてくれている特定の子ばかりになる事が多い。
- ・保護者とのコミュニケーションをもっと取って、関わりを深くしたい。
- ・子供たち一人一人との関わりを持ちつつ、全体を見られるようにしたい。
- ・児童の受入れ人数が多い分、一人一人の子どもと充分に関わりきれていない部分があるので、子ども達と充分に関わりをもてるよう今後の対応を課題としていきたいと思います。
- ・0~18才までの児童対応(特に中高生)、小1~3年の学童対応、未就園児対応とやるべきことがとても多い。地域の交流の場としての児童クラブも意識的に考えてやっていきたい。
- ・学校でも家庭でもない児童館の先生としての立場をどうするか。

<行政関係者回答>

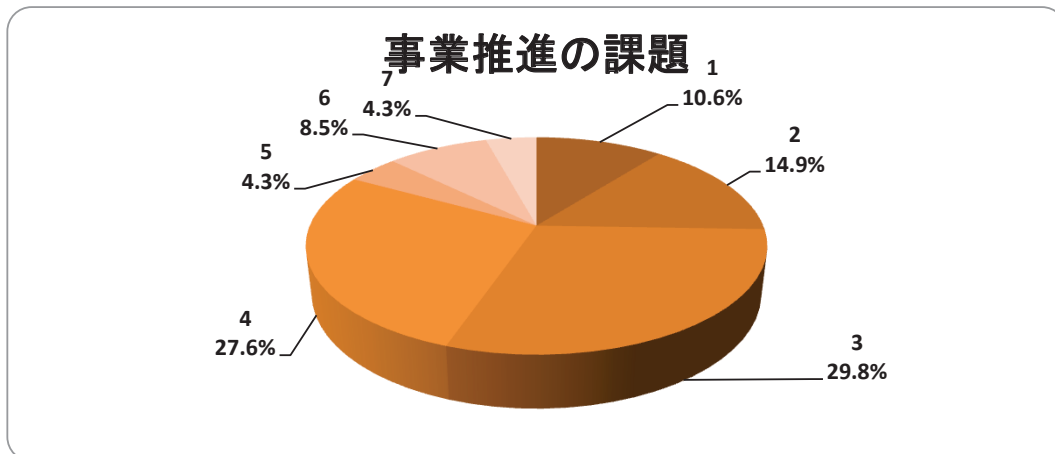
10 あなたの市町村で実施している事業は何ですか。

- ① 放課後子ども教室 ② 放課後児童クラブ ③ 両方実施している ④ 両方実施していない



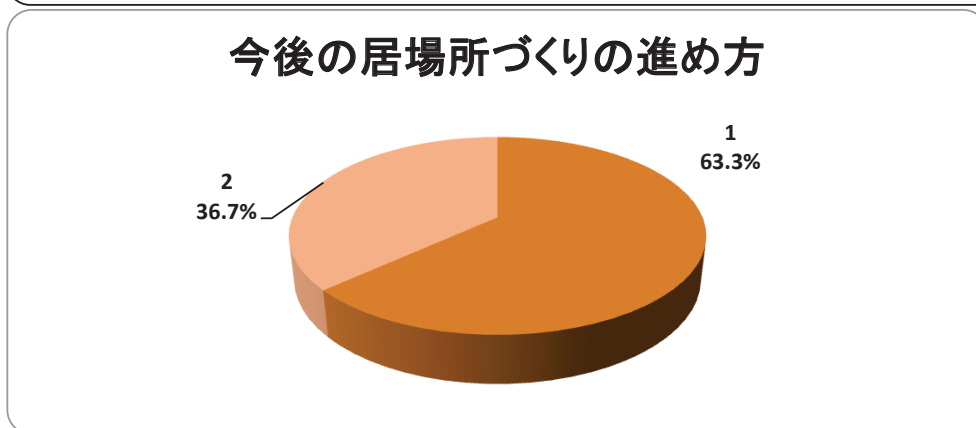
11 放課後の居場所づくり事業を推進する上で、一番の課題は何ですか。

- ① 予算の確保 ② 場所の確保 ③ スタッフの確保 ④ 学校の協力・支援の充実
⑤ 保護者の理解 ⑥ 放課後児童クラブと放課後子ども教室の類似性 ⑦ その他



12 今後、貴市町村における放課後の居場所づくり事業をどのように進めていく予定ですか。

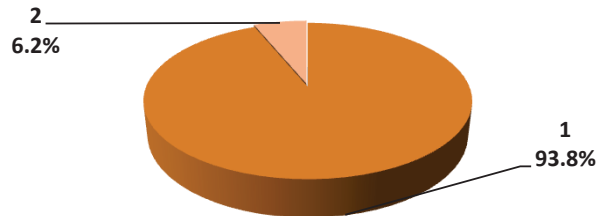
- ① 基本的に現状維持とする
② 放課後児童クラブを継続しながら、放課後子ども教室を順次各学校へ導入していき、放課後児童クラブとの一体的・連携した取組を検討していきたい。



13 放課後子ども教室と放課後児童クラブの両方を実施している場合

- ① 放課後児童クラブが義務化されても、放課後子ども教室を継続する。
- ② 放課後児童クラブが義務化されれば、放課後子ども教室をやめ、放課後児童クラブに一本化する。

放課後児童クラブが義務化された場合の対応



14 放課後の居場所づくり事業において、今後県に期待する役割をお書きください。

放課後子ども教室関係者

- ・予算の大幅確保
- ・各町村の情報
- ・放課後、子ども達がどう過ごすかはとても大切な課題であると思います。今後も県を挙げて力を入れていってほしいと思いました。
- ・子ども教室と児童クラブ運営の両事業を運営するための、より効果的な運営方法について県として考えられることの提案。
- ・大人(保護者)にとっては安心・安全な場所であるが、大きな集団になってしまった場合、子どもにとってよい環境の場所とは言えない。子どもにとって健全育成の環境になっているかを検証する必要がある。
- ・補助金額の確保
- ・学校にももっと協力を呼びかけてほしい。
- ・学校に入っていくには、教育委員会部局にすることが大切であると思います。ただ、部局をわけず「子ども関係」部局としてすすめていく必要があるように思います。今後福祉部局へ主管が動く予定になっています。今まで以上に垣根が高くなっていきそうです。学校の先生方が忙しいのは知っていますが、どうか受入れ姿勢をとってもらえるように道すじを作っていただければと思います。本当は、自分たちの市でやるべきだと思いますが、課間の垣根、部局間の垣根・・・どうにも出来ない状態にあります。「学校は学校だけ」「地域は地域だけ」「行政は行政だけ」とならないようになっていけばと思います。
- ・特に無いが、市の関係者に時々様子を見に来て欲しい。関心を示すことこそがスタートですよ。年1回のこの会は大変貴重です。
- ・ハードに対する補助金を交付していただけるとありがたい。
- ・事業を継続していく上での十分な予算確保をお願いします。
- ・施設設備に対する財政支援をお願いします。

放課後児童クラブ関係者

- ・文科省と厚労省の歩み寄りの一本化
- ・地域総合福祉助成金の補助基準額の増額をお願いしたいです。(現状では、施設の充実を図ることは難しいです。)
- ・子ども子育て三法について、詳しい情報(特に条例改正について)をいただきたいです。
- ・放課後子ども教室や放課後児童クラブの推進、運営のための事業補助金はあるが、児童館運営に関する補助金、助成金はあるのでしょうか。なければ、県レベルで創設してほしい。たとえば、地域福祉総合助成金交付事業で対応する。検討できないでしょうか。
- ・特別支援学級に通う子どもの受入れのための支援を手厚くしてほしい。

放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者以外

- ・具体的な方策を、各自治体毎に発表していただいてもよいのでは。